

## 福岡都市圏母体・新生児搬送双方向調査 概要

- 福岡都市圏の分娩取り扱い施設
- 期間 2009年8月1日から10月31日
- 2次・3次(受け手、時々依頼側)
  - 産科8施設中、6施設より回収:75%
  - 小児科7施設、5施設から回収:71%
- 1次(送り側)
  - 44カ所配布、27施設から回収:64%
- このうち、11月17日までに到着したものを解析した

## 調査項目

- 日時、イニシャル、年齢、週数
- 搬送理由
- 受入の可否と所要時間
- 受入不応需の場合の対応
- 受入後の経過
- 施設選択理由
  
- 依頼者・被依頼者双方の一致・不一致
  - ペアでの検討は九州大学病院の18例
    - 記録精度
    - 内容(理由、緊急性)

## 母体搬送

### 依頼者

- 21施設、62件の報告
  - 6件が1総合、1地域周産母子センター

### 被依頼者(受け入れ側)

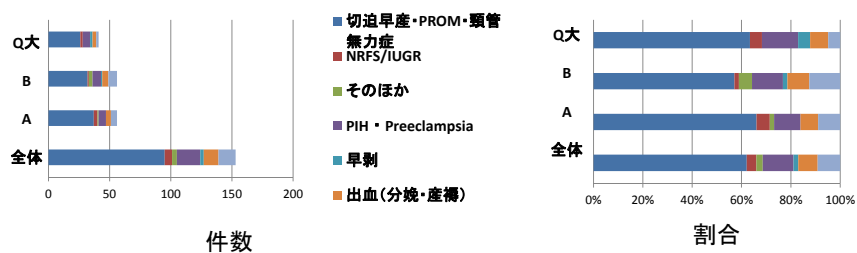
- 5施設、157件の報告
  - 153件が2総合、1地域周産母子センター
  - 24件が複数(2)施設から報告
- 141例、153件の搬送依頼について解析

### おおまかにまとめると

- 1ヶ月に40-45例の事例発生
- 1ヶ月に23日が母体搬送の発生日
  - 発生日の数8月:23日、9月:23日、10月:23日
- 過去の実績から、7割包含と推察される

## 被依頼状況

		全体	A	B	Q大
胎児要因 N=105	切迫早産・PROM・頸管無力症	95	37	32	26
	NRFS/IUGR	6	3	1	2
	そのほか	4	1	3	0
母体要因 N=48	PIH・Preeclampsia	19	6	7	6
	早剥	3	0	1	2
	出血(分娩・産褥)	12	4	5	3
	そのほか	14	5	7	2
被依頼件数		153	56	56	41

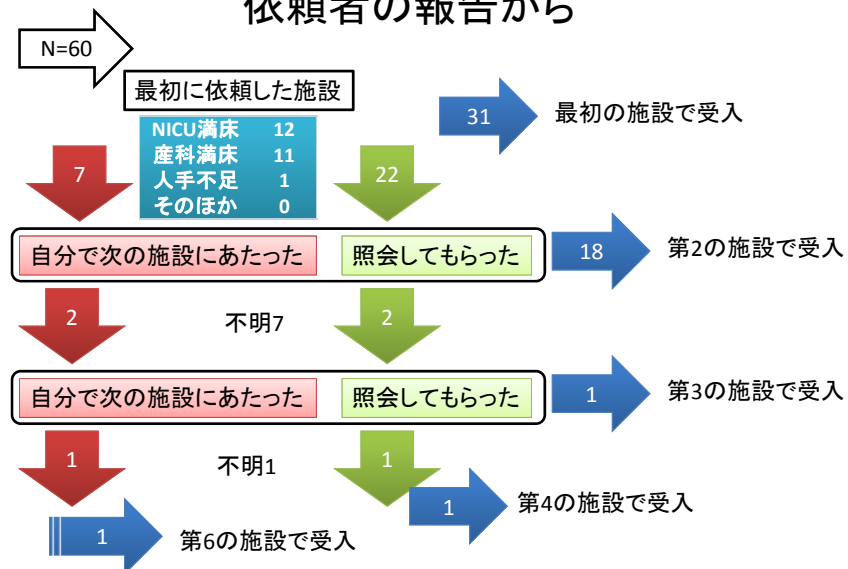


## 依頼者が最初に依頼する 施設を選択する理由 母体

	件数	%
依頼内容から妥当だから	25	41%
周産期センターだから	45	74%
距離的、時間的に近いから	32	52%
依頼しやすいから	26	43%
患者希望	5	8%
その他		
一括トリアージ役だから	2	3%
そのときのネーベンがきていたから	5	8%

N=62、複数回答可

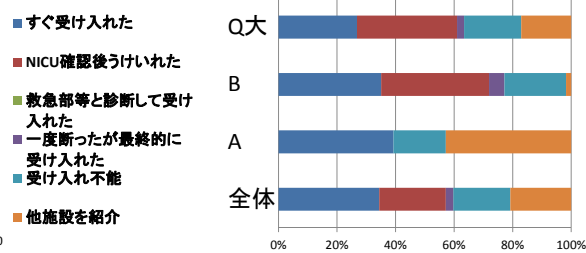
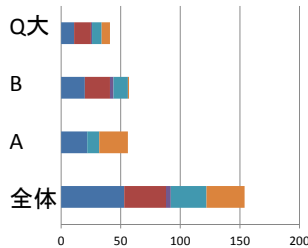
## 母体搬送依頼の受入先が決まるまで 依頼者の報告から



## 母体搬送受入状況 被依頼者の報告から

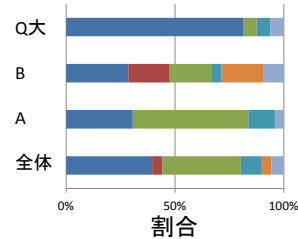
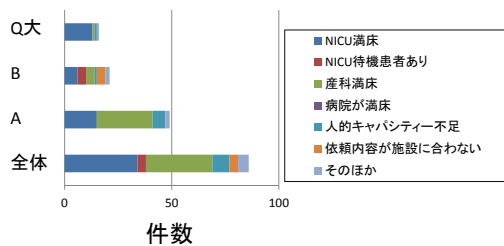
	全体	A	B	Q大
60% { すぐ受け入れた	53	22	20	11
NICU確認後うけいれた	35	0	21	14
救急部等と相談して受け入れた	0	0	0	0
一度断ったが最終的に受け入れた	4	0	3	1
受け入れ不能	30	10	12	8
他施設を紹介	32	24	1	7

探した施設数  
1施設 23件  
2施設 3件  
3施設 1件

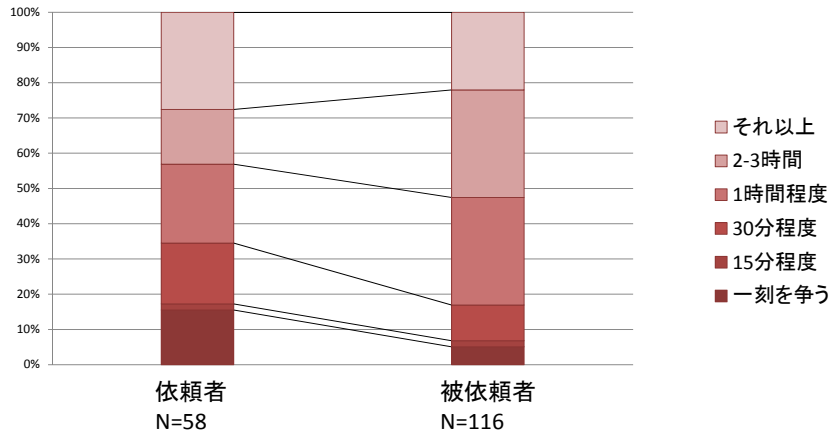


## 受入できなかった理由・母体 被依頼者の報告から

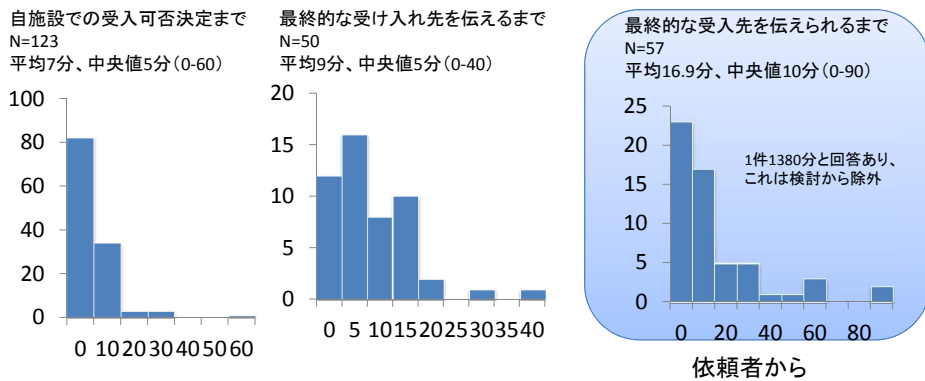
	全体	A	B	Q大
NICU満床	34	15	6	13
NICU待機患者あり	4	0	4	0
産科満床	31	26	4	1
病院が満床	0	0	0	0
人的キャパシティー不足	8	6	1	1
依頼内容が施設に合わない	4	0	4	0
そのほか	5	2	2	1



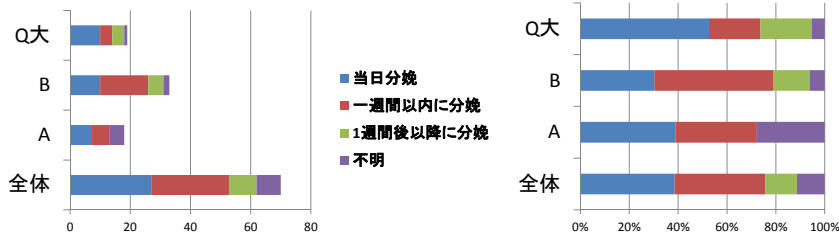
### 依頼者が伝えた緊急性と 被依頼者が受け取った緊急性 母体



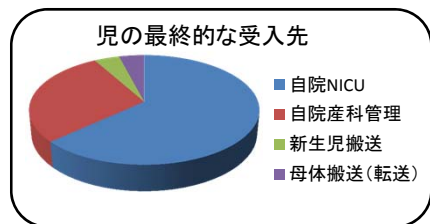
### 受入先決定・伝達までの時間 母体



## 受入後の印象・転帰

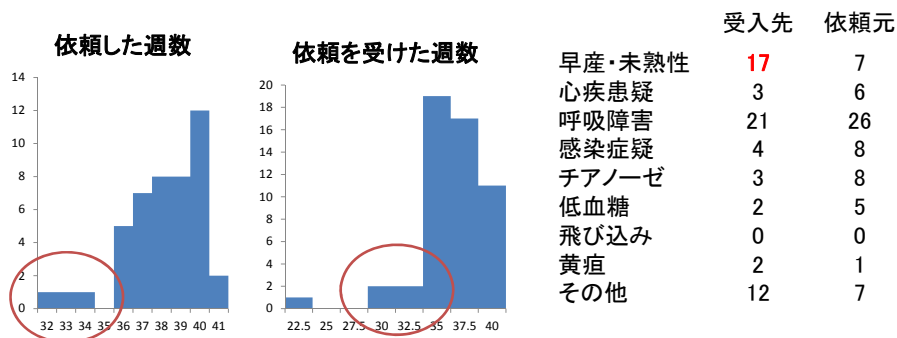


受け入れ後の印象	全体	%	A	B	Q大
想定通り	60	71%	14	27	19
想定より重症	13	15%	4	6	3
想定より軽症	12	14%	4	6	2



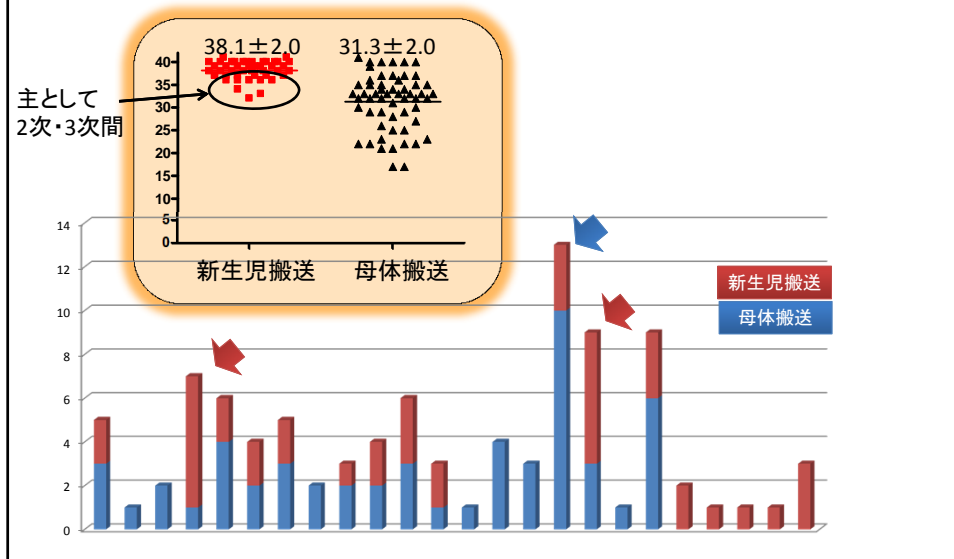
## 新生児搬送

- 18施設、50件の依頼
- 4施設、56件の被依頼



	受入先	依頼元
早産・未熟性	17	7
心疾患疑	3	6
呼吸障害	21	26
感染症疑	4	8
チアノーゼ	3	8
低血糖	2	5
飛び込み	0	0
黄疸	2	1
その他	12	7

## 施設毎の母胎・新生児搬送依頼数



## 依頼者が最初に依頼する 施設を選択する理由 新生児

	件数	割合
依頼内容から妥当だから	35	71%
周産期センターだから	19	39%
距離的、時間的に近いから	21	43%
依頼しやすいから	31	63%
ドクターカーで迎えに来てくれるから	16	33%
患者希望	1	2%
そのほか	2	4%

N=49

お迎え搬送		
あり	19件	40%
なし	28件	60%

## 受け入れ状況 新生児

	件数	
すぐ受け入れた	47	
他診療科と相談して受け入れた	0	
一度断ったが最終的に受け入れた	2	
受け入れ不能	0	
他施設を紹介	6	

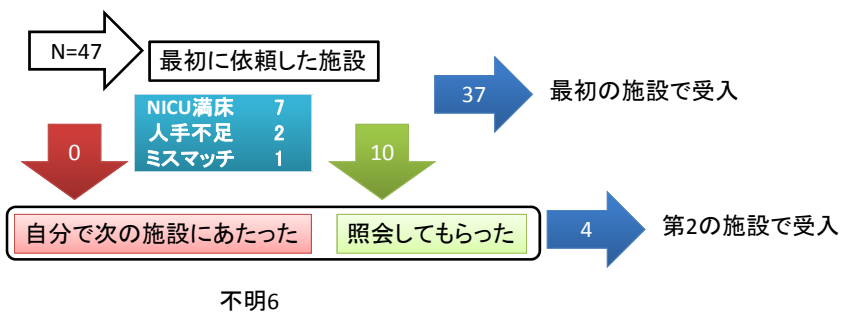
  

不応の理由	件数
NICU満床	7
NICU待機患者	0
マンパワー不足	0
依頼内容と施設能力が ミスマッチであった	1

探した施設数  
1施設 5件  
2施設 1件

受け入れ後の印象	件数	%
想定通り	36	78%
想定より重症	6	13%
想定より軽症	4	9%

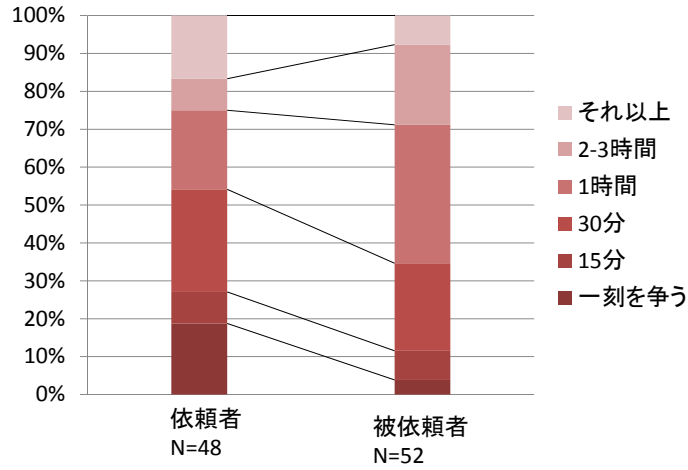
### 新生児搬送依頼の受入先が決まるまで 依頼者の報告より



3番目以降の施設を探したという報告はなかった



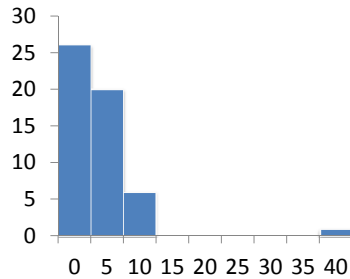
### 依頼者が伝えた緊急性と 被依頼者が受け取った緊急性 新生児



### 受入先決定・伝達までの時間 新生児

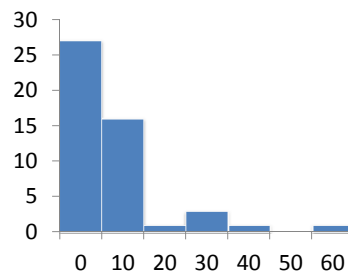
被依頼者からの回答

受入可否決定まで  
N=53  
平均4.1分、中央値5分(0-40)



依頼者からの回答

受入可否を伝えられるまで  
N=49  
平均9.6分、中央値5分(0-60)



## 福岡都市圏の母体・新生児搬送 現状のまとめ

- 母体搬送の7割は胎児要因で大半が早産系、3割が母体要因で、新生児搬送との棲み分けは良好。週数の早い新生児搬送は、高次施設間の転送。
- 搬送を最初に依頼する施設を選択する理由は「センターだから」、「近いから」、「依頼しやすいから」、新生児搬送では「お迎えの有無」も大きな要素。
- 母体・新生児搬送とも最初の施設で6割、第2の施設までで9割以上受入。
  - 母体・新生児搬送とも、依頼した施設が伝えた時間的緊急性よりも受入施設の受止めは低いが、大多数の症例の受入先は速やかに決まっている。全体としては、情報の伝達はおおむね良好。
  - 受入不能であった被依頼施設が次の施設を探すのは50%程度だが、依頼者が次の施設を探しても、探す施設の数や所要時間には大差がない。
  - 母体・新生児搬送を受け入れられない理由は主としてNICU満床であるが、母体搬送については産科満床の割合も高い。
- 母体搬送された症例の4割は当日分娩、1週間以内に9割が分娩となっているが、一部に新生児搬送や再転送される症例がある。
- 現状おおむね良好だが、
  - 瞬間的な“最大風速”に耐えられないときがある
  - 施設選択やその根拠、情報共有の仕組みがあれば、効率的な搬送ができる可能性はある。
  - 被依頼側の記録精度は、受入不能症例で低い可能性があり、個々の施設の記録だけでは、全体の動態の把握は困難
- **約束事と記録が必要ではないだろうか**